

平成28年5月17日

鹿児島大学病院で
小児心臓外科手術を受けた患者さん及びご家族の方へ
(臨床研究に関する情報)

鹿児島大学病院麻酔科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

小児心臓手術の HES 130 製剤使用による血液製剤使用量の変化
(後ろ向き研究)

【研究機関】

鹿児島大学病院 麻酔科

【研究責任者】

上村裕一 (麻酔科 教授)

【研究の目的】

心臓手術において血液製剤やアルブミン製剤の使用量は他の手術と比較して明らかに多いです。血液製剤やアルブミン製剤は貧血の改善や凝固因子の補充などメリットも大きいですが、感染やコストなどのデメリットも大きいです。ヒドロキシエチルデンプンはその高い膠質浸透圧により、循環血漿量減少の際に血管内に比較的長時間滞留し循環動態の改善に寄与し、感染の危険性がなく血液製剤やアルブミン製剤と比較して安価であることが報告されています。そこで、同じヒドロキシエチルデ

ソブンでも、以前から採用されていた HES70 と平成 26 年以降に鹿児島大学病院で採用になった HES130 を比較検討することにより、HES130 が血液製剤の役割の一部を代償し、血液製剤使用の減少に貢献できるかどうかを検証することは有意義だと考えられます。小児の心臓手術で異なる代用血漿剤（HES70 または HES130）を使用した際に血液製剤使用量が変化するかどうかを調べることで、価格や感染の面でリスクがある血液製剤の使用量を減らす方法を模索します。

【研究の方法】

平成 24 年 4 月 1 日から平成 27 年 10 月 31 日までに鹿児島大学病院で小児心臓外科手術を受けた患者さんを対象にしています。

●対象になる患者さん

平成 24 年 4 月 1 日から平成 27 年 10 月 31 日までに鹿児島大学病院で小児心臓外科手術を受けた患者さんを対象にしています。

●診療録（カルテ）から利用する情報

心臓血管外科の手術中に投与された輸液量や輸血量を利用します。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科侵襲制御学分野の研究費で実施します。この研究に対する企業等からの寄付は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 麻酔科

教授 上村裕一

電話 099-275-5430 FAX 099-265-1642